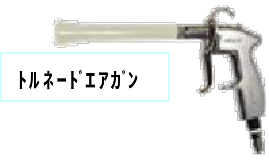
ジーアンドティー

G&T リアルカット･ポリッシングマニュアル

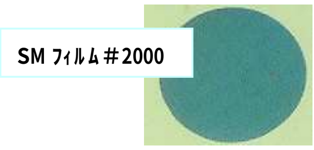
リアルカットの性能を最大限に引き出してお使い頂くために、作業マニュアルを作成致しました。このマニュアルは数多くの実車での実験をもとに作成しておりますので、必ず、皆様の作業のお役に立てることと、確信しております。また、コンパウンドの使い方だけでなく、使用する器具に関しても、最適な組み合わせを提案させて頂いております。
（下記の説明で使用する器具をまとめたリアルカットポリッシングセットを用意しております。）

1．バフの選択と清掃



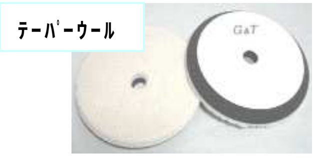
バフは、ウールバフとスポンジバフを使用します。
バフは、使用直前に必ず清掃して下さい。コンパウンドのカスや、砂埃が付着していると深い傷が入ります。
ウールバフは、エアブロー（トルネードエアガン）が最適です。ブラシを使う場合は、固めの靴ブラシなどを使用します。金ブラシは毛を痛め、バフの寿命が短くなります。又、ウールは水で洗うと、毛が膨れてしまうので気を付けて下さい。（ｺｯﾄﾝ系は OK です。） スポンジバフは、水洗いが最適です。リアルカットは水に溶け易いので簡単にきれいになります。清掃後、ポリッシャーに付け、バケツの中で指で押さえながら回せば、簡単に水切り出来ます。この時、バフの表面の状態も同時にチェックして下さい。

2．ゴミ･ブツの除去



それでは、実際にポリッシングの説明に入ります。ここでは、難易度の高い濃色車を想定した手順を紹介します。
まず、塗装面のゴミを#1500～2000 のペーパーで取り除きます。（ﾌﾞﾂ取りｷｯﾄやﾒﾀﾙの使用が効果的です。）
ゴミ処理後のペーパー目は、更に細かい番手（#2500～4000）で処理して下さい。

3．ﾍﾟｰﾊﾟｰ目の除去



濃色車を完璧に磨くには、ポリッシャーの回転数も重要です。ここでは、回転調整付きのポリッシャーの使用を前提に説明させて頂きます。
最初に、ウールバフ（ﾃｰﾊﾟｰﾀｲﾌﾟで 6 ﾐﾘ以上の毛足が理想）でペーパー目を消します。リアルカット B を消したいペーパー目の部分に付けます。親指半分くらいの量が目安です。ポリッシャーの回転を最も遅い調整にしてからバフの中心をコンパウンドの上に置き、ポリッシャーのスイッチを入れます。ゆっくり、力を入れないでバフを前後左右に動かして、コンパウンドをバフ全体になじませながら、塗面に均等に薄く延ばして下さい。次に、ほんの少し回転を上げて、消したいペーパ目の部分をこするイメージで、小刻みにバフを動かしながら研磨します。この時バフの中心よりも外側に力をかけて磨くと良く削れます。30～40cm 四方ずつに分けて作業し、全体を仕上げます。
バフにコンパウンドがなじんだら、以降はコンパウンドの塗布量を徐々に減らして下さい。
※曲面が多い最近の自動車を完璧に磨くには、パッドの選択が重要です。ポリッシャーのﾊﾟｯﾄﾞが硬いとバフの縁で傷が入り易くなります。適度にしなりがあり、柔軟性も併せ持ったﾊﾟｯﾄﾞ（テンションﾊﾟｯﾄﾞ）が最適です。

＊ヒント ポリッシャーのロックボタンを上手く使うと、作業しながら回転を調整できます。

4．肌調整

塗り肌が荒れていたり、ペーパー目が上手く消えない場合は、リアルカット A を使用します。A は研磨粒子の量が多いので、B の半分くらいの量を塗面に付け、先程の要領で均等に延ばしから磨きます。
A を使用する場合は、軽めに磨いて、次の B＋ウールでしっかり処理するイメージで作業してください。（この力配分が濃色車をより美しく仕上げるポイントです。）
＊ヒント B で磨いた後に、まだペーパー目が残っている場合は、A に戻るのではなく、＃3000～4000 のペーパーを再度、掛けた方が後の仕上がりがキレイです。B で再度、軽く磨けば簡単に処理できるはずです。

5．バフ目処理

3．4．の工程のあと、**ウールのバフ目を処理します。**（テンションﾊﾟｯﾄﾞなどの柔軟性のあるﾊﾟｯﾄﾞを使用することでウールのバフ目が目立たなくなり、処理が楽です。）
ここで、スポンジバフを使用します。目が細かくて腰があり、厚みが薄い（30 ㎜位）物が理想的です。（厚いとバフの外側に力を掛けにくい）再度 B を研磨面に付けて、上記の要領で磨きます。バフ目が消えたら、やや回転を上げバフを、研磨面に平らに当て、パネル全体に磨きむらが出ないように仕上げます。

6．仕上げ磨き

オーロラマークを防止する為に、リアルカット C で、仕上げ磨きをします。 仕上げ用のスポンジバフは、更に目が細かく、柔らかめの材質が理想的です。やはり厚みは、薄い方が使い易いでしょう。
B．と同じ要領でコンパウンドを塗り延ばし、今までよりも回転を上げて磨きます。この時、バフは余り傾けないで軽く置くようなイメージでゆっくり動かしながら、パネル全体をムラなく磨きます。C 剤は研磨時の圧力で更に粒子が細かくなるように設計されています。研磨面に薄っすら白い粉が出てくるまで磨いて下さい。

7．最終仕上げ

仕上げ拭き用の専用クロス（GT ﾏｲｸﾛｸﾛｽ）で研磨カスをふき取り、状態をチェックします。 問題がなければ最終工程として、洗車時の傷を防止する為に保護処理をします。（POLY ｼｰﾙﾄﾞなど）
※補修直後の研磨面は、非常に傷が付き易いデリケートな状態です。せっかく綺麗に仕上げたパネルを保護するため、必ずコーティング処理を行うことをお勧めします。

作業の仕上がりはいかがでしょうか？限られた紙面での説明では、充分にお伝え出来ない部分もあると思います。仕上がりにご不満がある場合、または、説明が良くわからない場合は、気軽にお問い合わせください。
※リアルカットポリッシングセットは、説明文中の推奨バフやパッド、その他、仕上げ用のクロスや保護剤など、磨き作業に必要な製品が全て入って、お徳な価格になっています。より良い仕上がりの為に、この機会に、ご購入を検討して頂ければ幸いです。
＊詳細は、販売店にお尋ね下さい。